



—北アフリカ地域ニュース—

リビア情勢：革命戦士の社会編入計画

(26日付現地報道)

2011年12月26日付現地紙等によれば、ジュワイリー国防相、アブドゥルアール内相およびトワイジャール計画相は25日夜、ラジュバーニー労働・訓練相同席のもと共同で記者会見を行い、革命戦士の社会編入計画について述べた。

## 1. ジュワイリー国防相

- (1) 戦士の希望により、国防省を含む様々な分野で戦士の雇用が行われる。戦士の役割は重要であり、多くの機会が全ての戦士に与えられ、多くの選択肢がある。
- (2) 国軍は前政権下において重視されず、その結果一部の集団に支配されてその機能が麻痺し、国民を守るというその主目的を果たすことができなかったが、国防省が戦士を吸収することは国軍に新しい血を導入することになり、また、憲法を順守し国の統一を守る職業軍建設を準備する機会ともなり、新しい始まりでもある。
- (3) 国防相の雇用計画には、彼らを軍のより上位の地位に就かせるための訓練プログラムもある。社会復帰を希望する戦士の登録と、彼らを軍、警察、民間部門に振り分けるために1カ月を必要とし、さらに国境警備や、油田、精油所など他の施設の警備ができるよう訓練するのに数カ月かかるだろう。

## 2. アブドゥルアール内相

- (1) 内務省は戦士の内務省での雇用に向け長期間準備を行い、今般、戦士をその職業上の資格や能力に従って内務省での職務に受け入れることを目的とする計画と作業メカニズムを策定した。計画では2万5000人が軍に、他の2万5000人が内務省に雇用される。
- (2) 彼らを雇用する目的は、内務省が2月17日革命とその成果を堅持する存在となるため、特に治安および民生部門における省内の労働力不足を充足するためである。このため、最高治安委員会についてはその再編が行われ、その職務も治安機関の支援とされ、その構成および支部についての決定が行われた。内務省への雇用においては、前線に参加した戦士や、現在警備を行っている戦士に優先権が与えられる。
- (3) ほとんどの武装勢力とは継続的に連絡を取っており、時折衝突が発生するが大きな問題ではない。武装勢力は毎日、いつ武器を手渡すか自分に照会してくるが、自分は武器を貯蔵できる施設ができるまで待つよう述べている。

### 3. トワイジャル計画相

- (1) 戦士の雇用は、全体として人的資源開発のための計画である。国の解放のため命をかけた者たちは、重要な施設の保護に適性を有するため、内務省、国防省および労働省における雇用の優先権が与えられた。彼らには計画に従った報酬が与えられ、それにより彼らは、将来のリビア建設に参加することになる。
- (2) 民間でも、様々な分野で戦士の雇用が行われるだろう。戦士には多くの選択肢があり、登録は2012年1月の最初の週から、資格や能力、練度に従って行われる。勉学や起業、民間機関への就職を希望する戦士にも機会が与えられる。登録の際には、治安機関への就労を求めるか学校に戻るか、あるいは特別な支援（注：2011年12月23日のキープ首相発言によれば無利子の貸付）を受けるか明確にする必要がある。